

# 賛助会北信

令和2年7月21日発行

第 131 号

(公財)長野県長寿社会開発

センター北信地区賛助会

発行者：前澤 政宏

## R2、北信地区賛助会新体制 が決定しました！！

令和2.3年度北信地区賛助会役員(敬称略・地区名＝支部名)

会長:前澤政宏(飯山)	副会長:寺島 進(中野)	監事:小林伸光(中野)	小松 巖(木島平)
幹事:中 野 綱嶋大助	吉谷真由美	顧問:片桐静雄(前会長 木島平)	
飯 山 峰村 真	大平康雄		
山ノ内 佐藤英彦	割田久雄		
木島平 金井義信	倉科吉男		



### 【新会長挨拶】

新型コロナウイルスが地球規模で蔓延し、未だ完全に終息していません。会員の皆様はご健勝のことと思います。当地区賛助会も活動をストップしたままになっています。会の活動は少しずつ再開したいと考えていますが、何といても高齢者の集まりです。万全を期して総会及び第1回目の幹事会は中止といたしました。一気に再開とはいきませんが、幹事一同コロナの行方を見守りながら活動を再開したいと思っていますところです。



さて、今年度は役員改選の年度です。過日の幹事による書面表決の結果、会長に推されました飯山支部の前澤政宏です。本来なら例年5月に行われている総会の席で新役員が選出される予定ですが、このご時世、暫定的ではありますが幹事の皆さんで決めていただきました。

前顧問の清水勅夫さんは高い識見と実行力行動力でこの会を盛り立ててくださいました。顧問は一人体制なのでこの度はご勇退であります。これからも陰に陽にお力添えをお願いします。そして前任の片桐会長さんは常に「居場所と出番」をことあるごとに説いておられました。誰も居場所がないうえに出番もないとなれば、こんな居心地の悪いところはありません。現職時代の職種を越えて、交流を深めていくように輪を広げていきましょう。その上で趣味特技知識等を社会に還元奉仕していくように頑張りましょう。足腰が動くうちは皆さん元気を出して集まりましょう。

脳の中は薄く力不足ですが頑張ります。会員の皆さん、役員 of 皆さん、事務所の皆さん、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。



会長 前澤政宏

## いつまでも楽しい場所求めて

顧問・前会長 片桐静雄

一言ご挨拶を申し上げます。平成 28 年春前会長清水勅夫さんから会長職を引き継ぎ、4 年間勤めてまいりました。

この間平成から令和へ移り、賛助会のあり方など色々な点において改革されてまいりました。今年はたまたま新型コロナウイルスの感染など、世界的に流行し、現在に至っておりますことは誠に残念であり、特に賛助会の総会などが中止され会員の皆様にごめいわくをかけて、誠に申し訳ありませんでした。

北信地区賛助会は市町村・各グループの協力により、行事・スポーツ・ボランティアなど多方面で活躍してまいりました。

特に『県歌「信濃の国」を巡る旅』は各市町村支部の持ち回りで計画をたて実践してきましたが、10回を終わり、大好評を受けております。

グループ活動では福祉・文化芸術・ボランティア・スポーツなど16グループの活躍も素晴らしいものでした。また「2019信州ねりんピック」が昨年9月21日、飯山市文化交流館なちゅらで開催され、県下各地から大勢の会員の皆様に参加していただき、成功裡に終了し会員の皆様のご支援に心から感謝申し上げます。

さて、賛助会・シニア大などの育成は私たちにとって大切なことであり、いつまでも楽しくすばらしい居場所を求めて活躍したいと思います。そのためには会員の増強が何よりも大切です。会員目標200人に向かってさらに努力していきたいと思います。そして地域や市町村に理解されるグループになることが大切です。ますますの発展を祈念して退任のあいさつといたします。

## お知らせ

【顕彰関係】前会長・現顧問：片桐静雄さん 県知事表彰

副会長：寺島 進さん センター理事長表彰

おめでとうございます。詳しいことは次号で



【北信支部】 9月12日開催 2020 信州ねりんピック 式典は中止、イベントは代替案検討中

9月26日スポーツ大会は中止 (大町市運動公園)

作品展は11月に延期し、内容を変更実施 (ホームページでの紹介)

【北信地区賛助会交流事業】 マレットゴルフ(山ノ内支部主管)・ペタンク(木島平支部主管)

ゲートボール(中野支部主管) いずれも夏以降に実施の予定

※信濃の国を巡る旅(飯山支部主管)当地区賛助会の目玉事業ですが、バス旅行で密になる可能性が高く、今年度は中止の方向で検討中です。

『**新入会員の紹介**』 長野県長寿社会開発センターの賛助会が発足したのは平成元年に、当時の木島平村村長の湯本安正氏が県知事をお願いして始まったと聞いております。平成15年度は北信地区だけで585人の会員数でした。しかし今は3月末現在で180人弱と、激減しています。寂しい限りです。気がかりなことは、シニア大学が今年度は休校となったことです。このことは会員の勧誘にも大いに影響しそうです。また賛助会の各種行事も延期や中止を検討しています。会費の納入に影響しないか心配です。

会員の皆さん、少人数なりにまとまり易さを活かして和やかな会にしていきたいと思います。

- 2月 大久保裕子・藤牧万三・竹内裕助・坂本多美子(中野支部)  
岡田みつ子(飯山支部) 小林英夫(山ノ内支部)  
瀧澤俊實(木島平) 金子和子(須坂市) 中村良子(小布施町)
- 3月 野竹房子・武田紀代子・小野幸子・藤岡京子(中野支部)  
山崎京子(飯山支部) 吉田千恵子(高山村)
- 4月 畔上定雄(山ノ内支部) 畔上令子(山ノ内支部)
- 5月 上田和子(須坂市)



グループに所属し居場所と  
出番を確保しましょう。  
よろしくね!

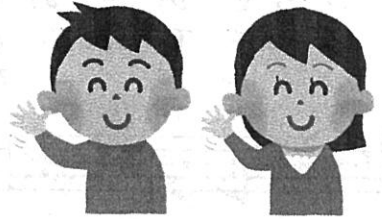
## 随 感

### お手振りは、タダでできる最高のおもてなし

東京オリンピック誘致のパフォーマンスで有名になりました、滝川クリステルさんの「お・も・て・な・し」が忘れられません。

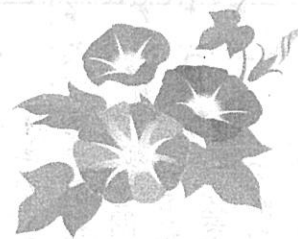
そこで思い出したのが、今から10数年前、「信濃の国の旅」が始まる前に飯山支部主催による「千曲川の源流を訪ねる旅」に参加させてもらいました。川上村の一面野菜畑の中を、会員を乗せたバス2台が走り抜けていました。印象的だったのは、作業中の農家の方があちらこちらどこを走っていても仕事の手を休め、バスに向かって手を振って歓迎してくれているではありませんか。観光県である長野県はこのような光景が広がればいいなと思いながらのバスの旅でした。

ついでに思い出したのが次のことです。NHKアナウンサーの鈴木健二さんをご存じと思いますが、今もご健在で91歳になられます。次の記事は、今から30数年前の信濃毎日新聞の記事「あいさつのある街に」です。



#### あいさつのある街に

「人間にとってどう  
いう街が一番住みやす  
いか」。それは、気軽  
にあいさつが飛び交う  
街でしょう



朝六時に起きて長野の街を散歩しま  
したが、家の前に出て掃除をしているお  
母さんは一人もいませんでした。家の前  
を通って登校する子供たちに、毎朝声を  
かけてあげたらどんなに素晴らしいこ  
とか。教育の場は学校だけではないん  
です。あいさつは「挨拶」と書いて『自分  
の心を開いて相手にせまる』意味があり  
ます。お互いに呼び合わなくなったらも  
う人間関係はおしまい。日本人は、利害  
関係がないと礼儀を尽くさないという  
悪い習慣がある。知らない人にあいさつ  
することは勇気がいりますが、自分さえ  
努力していれば、いつかは周りの人にも  
ひろがっていきます。」

NHKアナウンサーの鈴木健二さん  
(五八)(2日、長野市民会館で開いた  
講演会で)

「あいさつ」は挨拶と書いて…と言っておられます。次は、元常盤小学校長の清水喜久雄先生(著書に「太っ腹子育て」等があります。)が、飯山市内のある集落公民館の講座で講話された内容の一部です。

挨拶という字は、ムこうから矢ってくる人に首(くくく)を3回タれる、



というふうを書く。つまり「こんにちわ・お元気で  
すね・それじゃあまた」というふうに三回首を垂  
れるのですね。そしてす(手へん)は人の手を  
意味し、人の手は相手を押して迫るという意味  
があるそうです。「あいさつという字は、このように

コロナの影響で、テレビ  
番組は再放送が目立ち  
ます。コロナのせいではな  
いのですが、取材不足  
で、独りよがりな記事に  
はならない内容ばかり  
で申し訳ありません。  
会員の皆さん、どうぞ  
ご健勝にてお過ごし  
ください。

前澤





次に紹介する楽譜は10年以上前のもので、老犬27期生丸山芳信さんの作詞です。この学年は中野市・飯山市・山ノ内町の方たちだけでした。丸山さんは、北信地区賛助会の監事もお勤めいただいた方です。



## われら老犬二七会

(H20.10.5 曲付)

作詞 丸山 芳信  
作曲 前澤 政宏

J=84くらい

1) つとめ - おわりて ほれ - ぼれと だいに  
2) シニアの(ヤ)だんじょう とま - めき て どうこん  
3) うんご - - ガいや しゅうがく りこ う にねん

の - じんせい - ろう - だいへ なみ  
の - のみ - たの - しよ とし  
の - がく - まう - あ - っ とす へよ (螢の光  
「螢の光」の旋律で

の - い - やま やま の う ち シニア  
を - れす る こ う か く し - ん しやか  
別れの日 思い出 残る卒業式)

ア - がっど う ま な ゑ や の } われ  
い - ほ う り っ 入 花 - ッ と

ら - ろう だ い に い だ だ ガ - い

## われら老犬二七会

老犬二七期生 丸山芳信作

一 勤め終りてはればれと

第二の人生老犬へ

中野飯山山ノ内

シニアが集う学び舎の

われら老犬二七会

二 シニアの男女ときめきて

登校の日の楽しさよ

歳を忘れる向学心

社会法律スポーツと

われら老犬二七会

三 運動会や修学旅行

二年の学業アツと過ぎ

螢の光別れの日

想いで残る卒業式

われら老犬二七会

作詞者丸山さんは飯山市富倉のご出身で、中野市に在住されていました。

実践塾生の時、この詩を私に渡されましたがそのままにしていたところ、「前澤さん、あの詩(われら老犬二七会)はまだ持っているかい」と聞かれ、「あ、旋律をつけてくれ」ということかなど、まったくのKYでした。その後

二七会老犬二七期生の旅行や集まりにはよく歌っておられたようです。丸山さんは数年前に亡くなりました。

ご冥福をお祈りいたします。合掌

平成20年10月曲付け、作詞は半年くらい前だと思います。